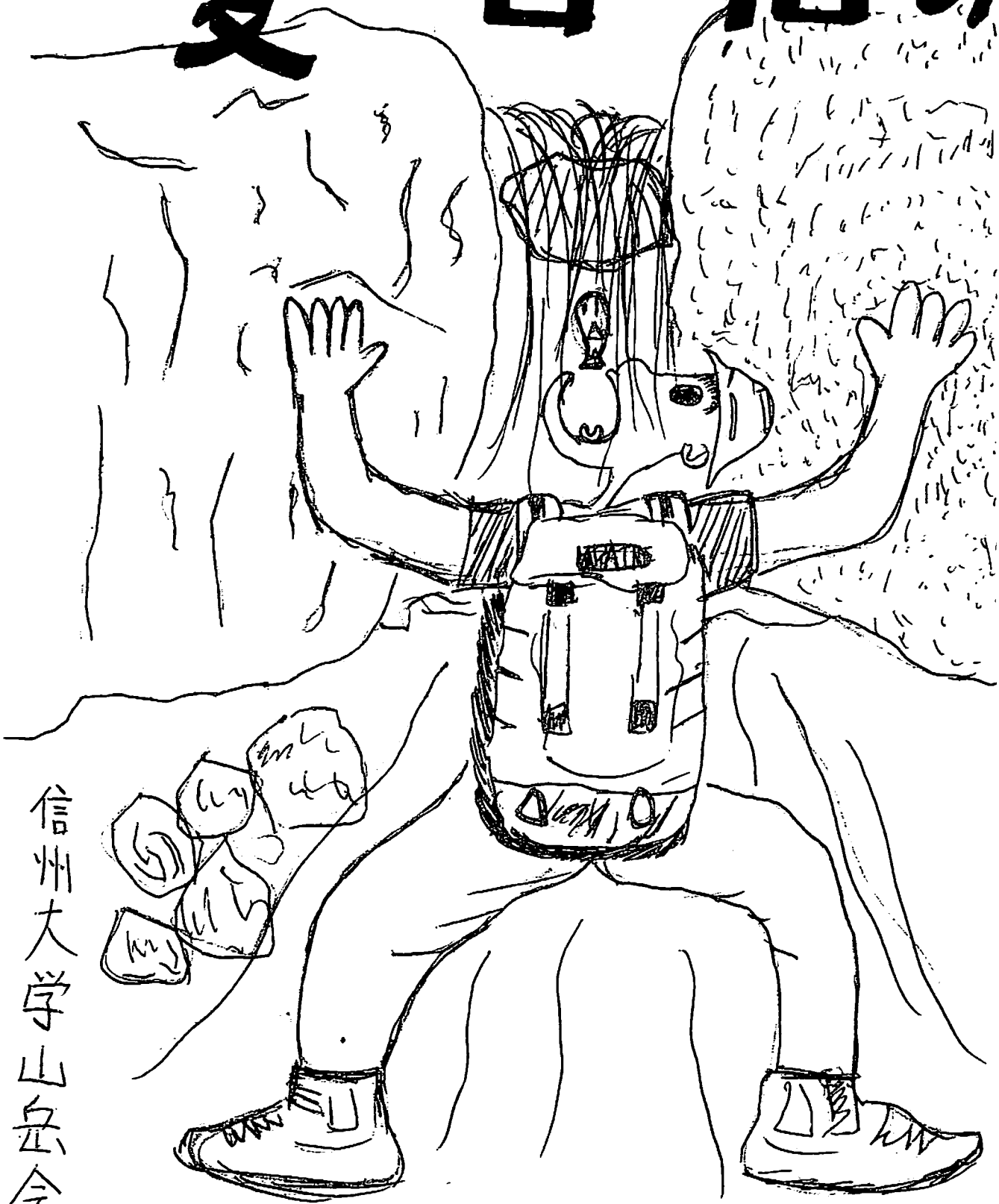


宿舍合夏



信州大学山岳会

8/24～31 夏合宿

8/24
BOX 500
黒部ダム 800
内蔵助平 T.S 1430

朝、井上が手の怪我により参加を断念。残念。ダムからは全員が進む。内蔵助谷の道は年々道が良くなる。皆重荷に苦しむが、意外に朝、井上が手の怪我により参加を断念。残念。ダムからは全員が進む。内蔵助谷の道は年々道が良くなる。皆重荷に苦しむが、意外に早い時間に着く。

8/25
起床 330
出発 525
ハンゴ谷乗越 835～910
真砂沢小屋 1130
熊の岩 B.C 1725

さすがに二日目は皆無言。徐々にペースが落ちてくる。昨年お世話になった真砂沢小屋にメロンを差し入れる。非常に喜んでいただけて嬉しい。長次郎谷は雪も多く快適だが、ポッカ人はここが一番の正念場。何とか暗くなる前にペースに着いた。お疲れ！

8/26
起床 600
FIX 隊出発 700
搬出法講習
登攀開始 1025

午前中はレストも兼ねて搬出法の講習をする。搬出法は定期的に繰り返しおさらいをしていないと忘れてしまう。緊張感を持って出来たのではないだろうか。終わったところでFIX 隊と合流して登攀を始める。しかし、どのパーティも1P登ったところで雨に降られる。仕方なく懸垂をしてベースに戻る。

横山×2 高谷 剣稜会
松寄 佐藤 京大
梶原 片寄 魚津高

8/27
起床 430
出発 550
出合 650
I 峰 1050
2 峰懸垂点下 1215
剣岳 1320～1350
B.C 1520

天候が思わしくないので源次郎尾根に行く事にする。どうせ行くなら晴れて欲しい。源次郎=雨。今回はそのレッチェルから解放してあげたい。長次郎を下る時、下から文登研が登ってきた。気合いが入っていた。源次郎はさして難しいところもなく、眼下にベースが見えたりと、快適な稜線歩きであった。山頂でゆっくりし、下山。左股は雪が無くなっており、ガレガレの斜面を間隔をあけて下る、下る。

8/28

起床 430

出発 540

岩小舎 600

横山×2 高谷

剣稜会 魚津高 オルガズム

松寄 佐藤

京大 久留米大

梶原 片寄

魚津高 V峰

快晴！意気揚々と岩小舎へ向かう。大きな剣の山をバックに登るこのロケーションは素晴らしい。一年生は緊張と喜び半々だったようだ。オルガズムは相変わらずいい！高谷も満足。充実の一日となった。

初本チャン初夏合宿初快晴。日焼けしました。凄いで剣！ハリボテみたいだったなあ。カラス、鴛、女の子、岩岩一。こわいなあ。 てつお

8/29

起床 400

出発 500

三の窓 850

梶原 佐藤 横山 J 高谷

左稜線

松寄 横山 K 片寄

中央チムニー～

Gチムニー、c・dクラック

チンネの頭合流 1740

チンネの頭 1800

B.C 2050

明日は天気が悪いということで、前日のミーティングで今日はチンネに行く事を決める。しかし、右股は雪が全くなくガレガレで、登るのに危険だったため、時間がかかって八ツ峰から行く事に決めた。天気は最高で、遠く富士山まで見える。久しぶりに縦走に楽しさが蘇ってきた。三の窓までは、右股を通ればあつという間なのに、FIX や懸垂をしたこともあり、大幅に時間を食う。左稜線は相変わらず素晴らしいの一言。T5 から上は時間も押し迫ってきて50m ぎりぎり延ばす。チンネの頭の着くと、松寄隊が待っていてくれて、ピナクルで記念撮影をする。最後高谷が登ってきて全員集合。急いで下る。途中ヘッドラ行動になったが、幻想的な月夜が印象的だった。

8/30

起床 630

出発 730

梶原 片寄 RCC

横山 K 佐藤 高谷 V峰

横山 J 松寄 八ツ峰下半

昨日遅くまで行動したこともあり、起床を遅らせる。午後は天気が良くないとのことで、一本だけに絞る。八ツ峰はなかなか楽しい縦走で、一年生にもお勧めである。V峰でノックたちと合流し、ピナクルでくつろぐ。向こう側では梶たちが登っている。片寄が登り切るのを確認して、コールを送る。貸し切りの八ツ峰に大きくこだました。

8/31

起床 400

出発 535

内蔵助平 1200

黒部ダム 1610

最終日。朝から雨で、撤収に手間取る。相変わらずポッカ人の荷物は重く、必死に歩く。いい加減嫌になる頃黒部川に出る。あとは一気に登るだけ。最後は気合いだ。ダムに着いた時の皆の顔は晴れ晴れとしていた。扇沢で春寂寥を熟唱する。心に響いた。

—総括—

・出発まで

例年この時期は忙しく、あわただしい中で出発するものだが、今回も例外なくあわただしかった。直前になって、一年生が一人辞めることになり、いろいろ修正する部分も出たが、全体に悪影響を与えるようなことはなかった。最も大きな反省点としては、前日の岩トレで井上が手に怪我を負ってしまったことである。これは連れていった本人として反省するところである。例年よりも岩トレのノルマを増やしたため、一年生がその数を気にしてしまったことにも一因がある。あわただしいこの時期は岩トレに行くのはもちろんいいのだが、いつも以上に慎重にならなければならない。その点ではノルマを増やすことにも慎重になるべきだった。準備に関しては、リーダーが参加できなかったが、皆てきぱきとやっていたように思う。夏合宿での装備は重要である。前々からガチャ等の数の把握はしておくべきである。来年以降もしっかりやって欲しい。

・合宿中の生活に関して

人数が少ないこともあり、全体を把握しやすく、また、皆てきぱきと動けたのではないかな。一方で、上級生がやりすぎた感もある。上級生はうまく人を使えてこそその価値は上がるはずだ。逆に、一年生はもっと積極性が欲しい。次何をやればよいかはもうわかっているはずなのだから、上級生の指示を待っているようではだめだ。また、行動にめりはりが無い。例えば、朝のブレ火は遅すぎる。朝は時間が勝負だ。切り替えを大事に。天気図はお粗末だった。この時期にこんなことを言われるのは恥だと思った方がよい。

・登攀に関して

剣の登攀は成功して当たり前。それだけの練習を積んできているのだから。そんな時こそいかに集中力を保てるかである。集中力ということに関しては合格だったと思う。一方、やはり、ところどころに技術の不足がみとれた。それは難しいところが登れない、とか、そう言うものではなく、例えば、出だしのプロテクションが甘い、とか、ルーフアイをミスとかいったことである。これに関しては経験を積み、というしかない。皆の一層の努力を期待する。一年生は良く登っていたと思う。うまく緊張感を保ち、丁寧に登っていた。あとは必死に経験を積むべし。緊張感を保つのはいい事だが、そのせいで体が硬くなってしまっただけは逆効果だ。頑張っただけの緊張感を楽しめるくらいにまでなろう。全体的に、締まっていた良かったと思う。登攀は皆の疲れ等を見て柔軟に対応すべきである。

・FIXに関して

まず、ピナ泥棒がでたのは怒りを禁じ得ない。明らかに意図的な行為であり、信じがたい。ある所では一番下の支点がまるつきり無くなっていて、もし滑って落ちたら確実に死んでいただろうという場所があった。早めに気づいて良かったが。ただし、FIXはずっと張っておくものであり、ロープの痛みにはもっと敏感になるべきだし、信大のFIXだということをもっとアピールしておく必要もある。特にロープの痛みに関しては十分に注意を払う必要がある。一日残置しておくだけで、風が吹いたりすればあっという間に岩角で擦れて

痛んでしまうということを覚えておいて欲しい。縦走などで FIX が現れる時(例えば今回のチンネに行くまで)には、カムの小～中間サイズがあると便利だ。あっという間にしっかりした支点を設置することが可能である。これは FIX に限らず登攀全体に言えることだが、もっとナチュプロを活用しよう。下手な残置よりよっぽど信頼できるものである。

・全体を通して

何より合宿中に事故がなくて良かった。だれることなく良い合宿が出来たのではないだろうか。小人数であるからこそ、自らの役割をしっかり果たし、積極的に仕事をする必要がある。一年生は緊張の連続で大変だっただろうが、その中に楽しみというものを少しでも見出してもらえたら嬉しい。夏合宿で得た経験はきっとこの先の山行に役立つ。もう一度夏合宿を振り返ってみて欲しい。

最後に、現役留守をして下さった日高さん、川井さんに感謝します。

また、OBの方からはカンパを頂きました。どうもありがとうございました。

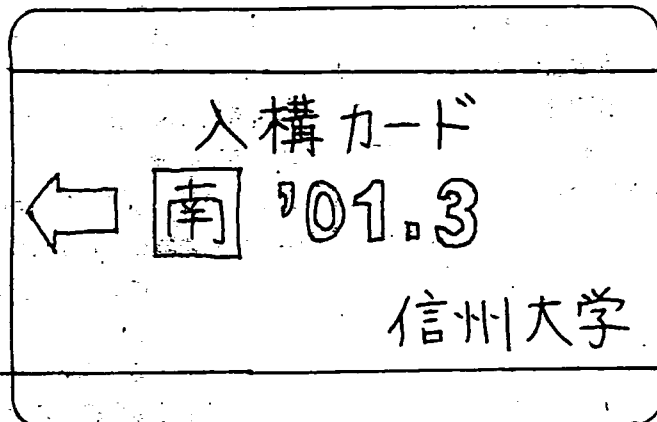
夏合宿

岩トレに行って、お留守番になったという
変な話。出発日の朝、BOXから扇沢へ
向けて走り去る車を見ながら啞然と
してしまった。みんなにはたくさん心配
をかけてしまった。

みなさんごめんなさい。

ちなみに、**初**本チャンだった北岳バットレスは
とても怖く、でも今思えば楽しかったです。

井上 あゆみ



夏合宿 三感

一年片寄哲生

正直にこう思った。 恐い、辛い、臭い。岩登りはやっぱりこわい。立岩よりずっと楽だと聞いていたからか。それでなくても、やっぱり恐い。落ちる自分、落石する自分、両方が頭の中で交互に、容易にイメージされた。何で自分はこわいこわいと 思いなから岩を登っているんだろうと思った。でも死ぬはずはないと考えていた。それから、死ぬってじんじんなかと思っただ。

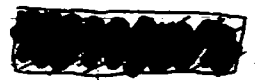
歩荷がっらかった。一日目は、普通のしり方ではじめても背負えないう荷物というものを初めて味わった。重かっているんだなあと思っただ。下山時の歩荷では、これまた初めて、ガックの重さと汗で自然にアカが出るのを経験した。感慨深かった。

BOXに帰ってきて、皆でふと、ぱらに行った時、初めて自分で自分が臭いとわかった。臭い。うん、臭い。臭い……。とっよりすっぱい。すっぱい匂いの自分。山にいた時は 匂わなかったのに。

こうして三感を緩てみると、かなり楽しかったと思われてきた。来年、佐藤さん(スコイ)みたくな荷物を想像するにゾクゾクするけど、また三感を味わいに 行けるといっわけか。

夏合宿に行かせてもらい、無事帰ってこれたことに感謝します。

来年は、左綾線とオルガズムが待っている。



夏合宿を振り返って 高谷 英太郎

夏合宿が終わった。厳しく、つらい、けどとても楽しく充実した合宿であった。ここでは感想反省を踏まえて夏合宿を振り返ってみたいと思う。

一日目は、扇沢駅から黒部ダムそして内蔵助平への行程であった。この行程は縦走合宿でも経験していたが、今回は縦走合宿と違って荷物の重さが50kg近く有ったので、全く違う道に思えた。二日目は内蔵助平から熊の岩B、Cまで。ハシゴ谷乗越への登りと、熊の岩へと向かう長次郎谷の雪渓登りは大変きついものであった。熊の岩に着いたときにはへろへろであったが、同時に大変な充実感があった。そして、三日目。この日から七日目まではいよいよ登攀である。登攀初日のこの日は六峰Cフェースの剣稜会ルートに登ることになった。初めての本チャンとあって正直な話、出発前少しびびっていた。そして登攀。しかし、雨が降り出して1P目を登った所から懸垂下降で下に降りた。少し残念であったがとりあえず本チャンデビュー出来たので嬉しかった。四日目。この日は源次郎尾根を縦走した。源次郎尾根は思ったよりスリルがあつてなかなかおもしろかった。心配された天気も何とかもってくれて良かった。五日目。この日は剣稜会ルートと魚津高ルートと熊の岩オルガズムルートに登った。登攀初日は雨に降られたがこの日は天気も良く絶好の登攀日和であった。登攀はとても気持ちよく、楽しいものであった。六日目はチンネ左稜線を登った。チンネ左稜線は日本を代表するアルパインルートとあって、とても登り応えがあつて、登っていてわくわくするような素晴らしいルートであった。しかし、ガスっていて視界があまり利かなかつたのは少し残念な点でもあった。七日目は五峰に登った。下から見ると立派なピナクルも上で見るとピナクルか認識できないようなものであった。八日目。下山。僕の中ではこの日が一番きつかった。異様に荷物が重く感じられて歩ききれるか心配であった。しかし黒部ダム駅に着いたときには、感動に似た充実感があった。

こうして合宿は終わったのであるが反省点としては体力、歩行技術、天気図の力をもっと身につけるといふ事が挙げられる。この合宿では本チャンの楽しさや怖さを思う存分感じる事が出来た。この合宿最大の収穫は自分の中に本チャンに対する前向きな気持ちが生まれたことである。

夏合宿の反省・感想

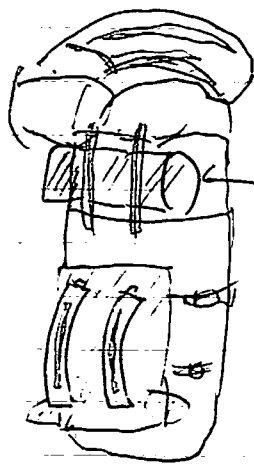
佐ト

ラストボウカ... キツかった。剣沢からほとんど意識がつかない感じがする。確信した。2年は根性あるのみ。あんまり好き

きな言葉じゃないけどね、牛から人への進化は感概深い。非常にウレシイ!!! 1年かかれば、あはは。

しかし、人に進化。し下のはいいが、まだ"まだ"ヨクヨク歩きの赤ん坊。頭脳の発達が遅れている。ルーティン、決断力、判断力、全体を見える眼、等、頭を鍛える。今後の目標である。

今年の合宿は事故に対し例年以上にヤリヒョリしていた。去年の僕の事故の反省点が活かされているようでとてもよかった。1年生にも事故の恐さ、充分伝わっていた。来年の1年生にも伝えていきたいと思う。



← ダブルリッパ
通称"コト"

これは"ヤリ"が
DANROPは

一生もちたぐないね。

夏合宿の反省・感想 (6)

4年 梶原

まず、何よりも事故がなく無事下山できたことが良かった。天気にも恵まれ、チンネにも行くことが出来た。全体的に実りの多い合宿ではなかっただろうか。その一方で、出発前日の岩トレでの井上の事故に関しては反省の残る所である。

合宿成功の一因としては、やはり1年生が2人だったという事で、上級生の負担が少なかったことが挙げられるだろう。上級生が多いことで合宿の流れがスムーズだった。逆にいえば、上級生がやりすぎてしまうことにもなった。

1年生は何よりも体力を!!冬は近い。

2年生は歩荷お疲れ様。もっと周りに気を配れるように。

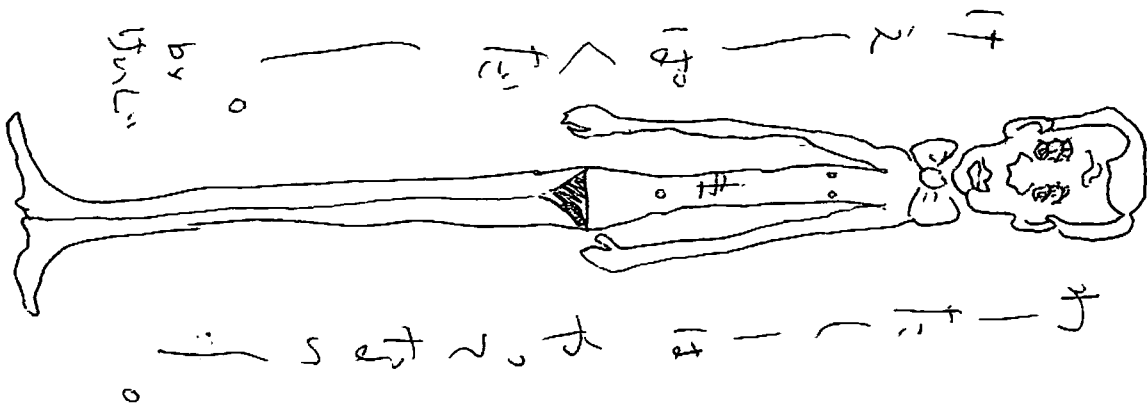
3年生はいない。

4年生は最後の冬へ引き締めて行こう。

夏は終わった。秋は短く、冬は「あっ!!」という間にやってくる。冬合宿の成功のために各自が出来ることをしていこう。

個人的には、非常に楽しかった。昨年、ハッ峰V峰の頂にウイスキーをデポしておいたのだが、「なんと!!」今年それを回収。剣の冬を越えた酒の味は何となく、おいしいかな。そしてチンネ左稜線に行くことが出来た。左稜線は本チャンへの価値観が変わるほどの良いルートだった。

冬に向けて、4年最後の冬にむけて、追い込んで行きたい。



夏合宿の反省感想

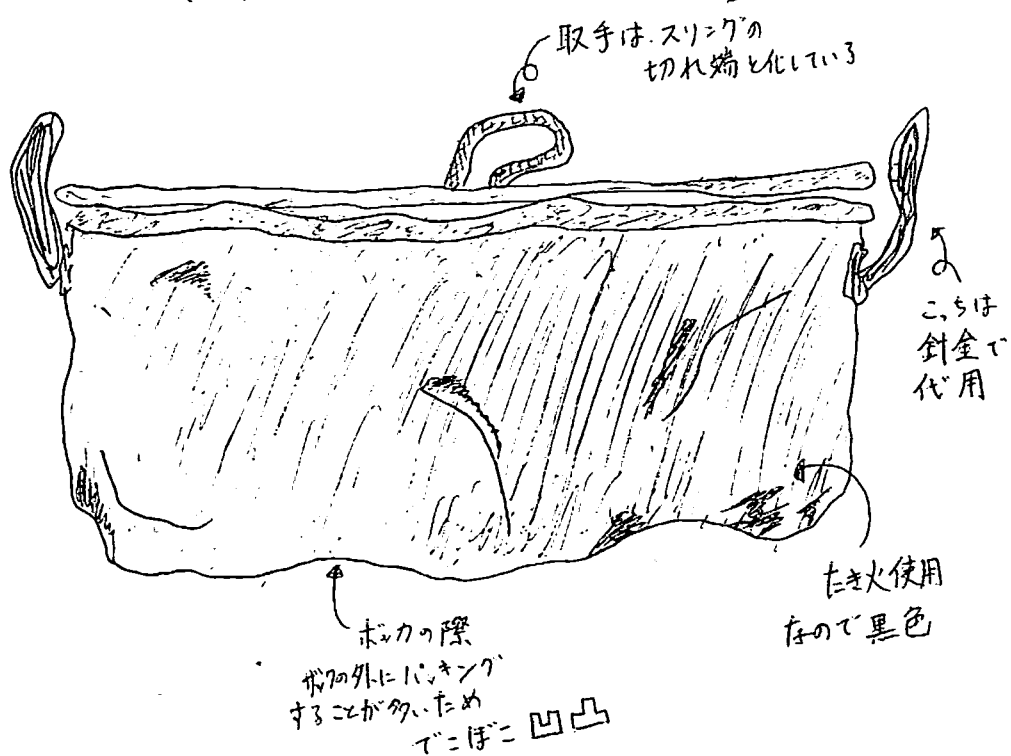
松寄林太郎

今回の夏合宿は、出発前日の井上のケガに始まり結果的に緊張感があり事故がなかった事はよかった。ただ、井上に合宿に参加させてやれなかったのは残念なことだ。合宿前日は休息なり山の準備に向けるのが良いのでしょう。

合宿の中身については、人数減少の中で4年生4人、2年生一人という上級生の体制によりやく慣れてきて、それぞれの役割に的確に動いていたように思う。特に、佐藤は近年まれに見る重荷に耐え積極的に動いていたのではないだろうか。また、行動に着いても中口にチンネ、最終日に八峰縦走など臨機応変に対応できていた。

一年生は、ポッカに初めての本ちゃんと充実した合宿だったと思う。まだまだ、後ろを歩いていると歩きなれていないという感じがする。合宿に参加できなかった井上も含めて楽しみながら冬へと向かう山を楽しんで欲しい。

当会自慢の一品「デカ鍋」



夏合宿の反省と感想 98S6024H 横山 勝丘

まず第一に井上を合宿に連れて行けなかったことが大きな反省である。井上には申し訳ないことをした。合宿前はおとなしくしているのが一番だということか。井上はこれからどンドン山に行こう！

合宿に関しては、何だかんだで結局一年生は二人となり、上級生不足の心配もどこへやら。非常に合宿をやりやすかった。個人個人がしっかり役割を果たせたのではないだろうか。部員は多い方が良いが、少なければ少ないなりに一人一人がしっかり仕事をこなさなければならず、それはそれで実りあるものになるだろう。四年生はよく皆を率いてくれたと思う。自分一人では足りないところをよく補ってくれた。

合宿の計画消化に関しては、思っていたよりも天気が良くてよかった。毎日行動して皆充実していたのではないだろうか。夏合宿は岩登りの合宿であるが、それ以外にも雪渓技術や岩稜歩行、ピバーク等の技術を身につける場であってもよい(とはいっても雪訓は絶対いやだけ)。だから、毎日ががん登るのではなく、初日は八ツ峰を縦走したりレスキュー講習をやったりするのもいいし、三日目くらいに一本だけ登った後三の窓に行ってピバークをし、翌日チンネを登って帰ってきたりすることは非常に有意義であると思う。そういう事が可能な場所である。

一年生にはそれなりに本チャンの経験をさせてあげられたと思っている。また、上級生に関してもよい勉強になったのではないだろうか。はっきりいって今年は上級生の岩のレベルが低かった。もちろん好き嫌いはあるだろうが、それは関係ない。少なくともその学年に見合うだけの技術と経験は身につけておいて欲しい。本チャンは不確定要素が大きいので、具体的な数値を示すのは難しいが、少なくとも上級生は5.10aで落ちているようではお話にならない。フェースなら確実にオンサイトしなければならない。また、個人的にはクラックの技術は不可欠だと考えている。それは、岩を読む力、プロテクション技術、精神力の向上に大きな効果があると思うからだ。出来ればクラックは必修にしたい。そして、積極的に本チャンに行くこと。様々な条件で自分がどういう判断を下せばいいのか、それは頭で解ることではない。仮に、チンネ左稜線のど真ん中で天候が急変した、落石を受けて怪我をした、等のアクシデントが起こったらすばやく的確な判断を下せるだろうか？その時にかにすばやく的確な判断を下せるかは、いかに自分が様々な経験を自分のものとして蓄積させているかによるのだと思う。

岩登りは怖いものである。それを、自分の技術、経験、体力、根性等でいかに冷静かつ的確にこなせるか。それが岩の面白さではないだろうか。

一年生へ 歩行技術をもっと向上させろ、積極性をもっと欲しい、基礎は完璧にしろ！

佐藤へ ボッカお疲れ！細かいルーファイミスを無くせ、更なるUPを目指そう！

四年生へ お疲れさま、もっと沢山意欲的な山行をしよう！

冬は近い。だれることなく冬合宿に備えるべし。厳しいぞ！あーんど楽しいぞ！！

夏合宿の反省と感想

今年の夏合宿は、上級生5人、1年生2人の計7人という少し小さい構成だったが、天候も比較的安定していたため、内容は充実したものになったと思う。

1年生2人は良く歩荷し、満足できるくらい岩に取り付けたと思う。2年の佐トも、この合宿で去年のトラウマを払拭できただろう。

1年生2人はこの夏合宿を土台にして、さらに力をつけてほしい。佐トもこの合宿を突破した事で、山の世界がまた一段と広がっていくのではないだろうか。

事故もなく、無事に夏合宿を終えられた事は上級生の自信にもつながるでしょう。

それだけに、悔やまれるのは、合宿直前の井上のケガであり、慎重さに欠けていた事に対する反省へとつながる。

縦走合宿、岩し、杖の準備撤収も、1年生が凍えているのは当然であり、上級生が1年生の状態をまよく見て配慮する事が必要。来年以降も気をつけてほしい所だ。

過去に、合宿に参加できなかった、途中下山をした先輩はたくさんいる。井上もきっと乗り越えてくれるでしょう。悔しいと思えば分だけ強くなるし、山や山岳会を楽しんでいれば、力は後からついてくると思う。頑張れ。

個人の感想としては、千本の頂上にメンバー全員で立っていた時に、単純だが頂上に全員で立つという事に対する感動を感じた。ぜひ今合宿は8人全員で目的の山頂へ立ちたいと、強くその時思った。

また、初週辺は、この時期人も少なく、独特の雰囲気がある。1年に1回は来た方がいい所だと感じた。夜の八ヶ岳も幻想的で良かった。来年もまた来ようかなと、歩荷はもうそろそろいいかな。

4年 横山 禪生
(Knock)

装備の反省感想

佐上

- Fixのヒートンがギリギリであったので来年はもっとな持ていったほうがよい。余裕をもたせて15本ぐらいがいいと思う。
- 今回合宿では初めてロストアローを加えたのだが、これは使える。サイズは広すぎ、イングリッドでは狭すぎというクラックはJust Fitだ。来年ももっとないへし。
- 去年の合宿ではおたはすのピナが大量にみかたので、ピナ20枚買っただけだった。団装は大切だ。
- Fixロープ、9mmロープ共にたぶん古くなってきている。2本に余裕ができればどんどん買い換えるべし。サイズは命なり。
- 合宿中、Fixのピナ2枚が盗まれる。対策は？う〜ん。クレーマーのモラルに訴えなければ。

- ④ 株
- ピナ 5枚 (うち2枚は盗まれる)
 - シリコン 9本 (可なりで残置)
 - ホルト 2本 (残置)
 - ヒートン 2枚 (1本は残置)

尚、ギア、ランチャクを貸して下さった上級生、OBのみならず、まありがどうもありがとうございました。

- ヒートンも古くなってきている。ヒビが入ってたり。先がねい曲がってたり。ヒートンも増やした方がいい。

気象・医療係から

〈気象〉

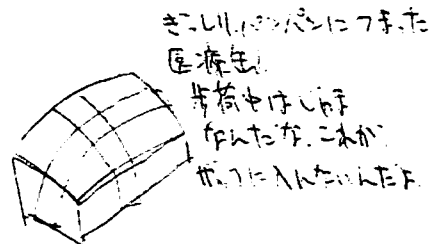
- ① 天行図は毎朝
 基本は「指針」の書かして置く。長さが
 十本に行く日等は二級にも書きながら置くでしょう。
- ② 指針は天行図を書きスピードも重視しよう。放送終了後
 15分以内には書けるように。
 「真に正確に」が理想。
 自分の納得がいくまで書き続けなければならないこと

〈医療〉

- ① 緊急用のもは各自へ持たせる。
 (例えば 包帯、傷薬、三角巾等)
- ② 医療係が、次の合宿迄 医療係を管理しておく
 方がいいだろう。毎回 医薬品を買ったのでは金がかかりすぎる。次回に使えるものは、きちんと保管
 しておくように。
- ③ 医療係、気象係、係は指定したテントに置いておく。
 誰でもすぐ使えるようにしておく。

総括：新・合宿に比べ、医療係として 役も活躍する事が
 なかったのは幸いであらう。古びた清くはない合宿
 というのはある方がなかった。よかった。
 そして、各合宿もこれに続いてくればと願う

Knock.



会計・渉外の反省 松壽林太郎

まず収支を…

収入…13万6千円

支出…13万5千5百60円

残金…4千4百40円（ふとっばらにて放出）

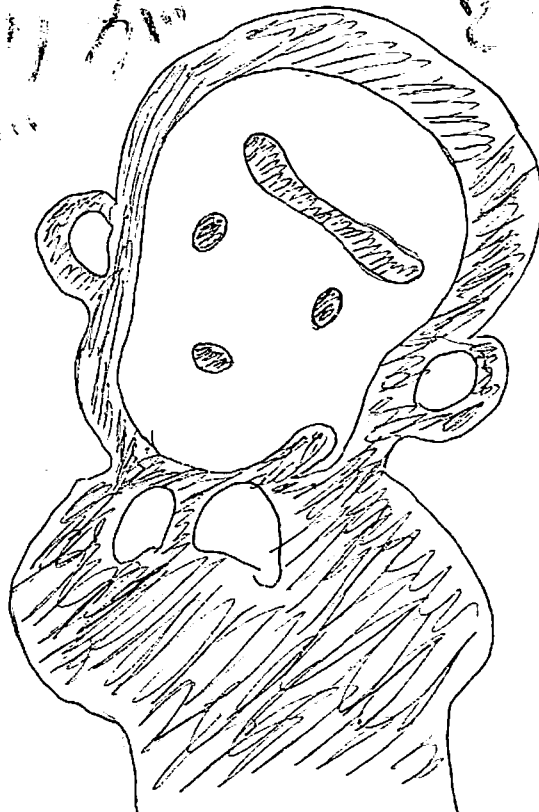
- ・毎年、夏合宿は合宿費が1万8千円と高額ですが登攀具等意外と装備にお金がかかるのでこれが妥当なのでしょうか？
- ・真砂沢と富山県警に持っていくはずであったお礼を忘れてしまった。
- ・来年会計渉外を担当する人は、事前の雪溪の状態、登山道の状態を調べるのもこの係の仕事です。
- ・合宿前に中嶋さんから差し入れとして1万円いただいた。ありがとうございました。
- ・定説「早め早めの会計渉外？」

以上

車出してくれた人。

ホリカ

どう



戸隠流
お礼

エッセンの反省

担当：梶原

4年にもなってエッセンをやるとは思ってもしなかったが、やりたい放題やらせてもらった。まあ、皆さん満足頂けたのでは…。

- ・野菜にキャベツ、ナス、大根などを入れるとおいしさ倍増
- ・アイスクリーム、プリンなどはうまい!!
- ・登攀中のレーション・昼飯は少なくて良い

反省は以上。

～ 編集後記 ～

いやー。すっかり秋ですね。

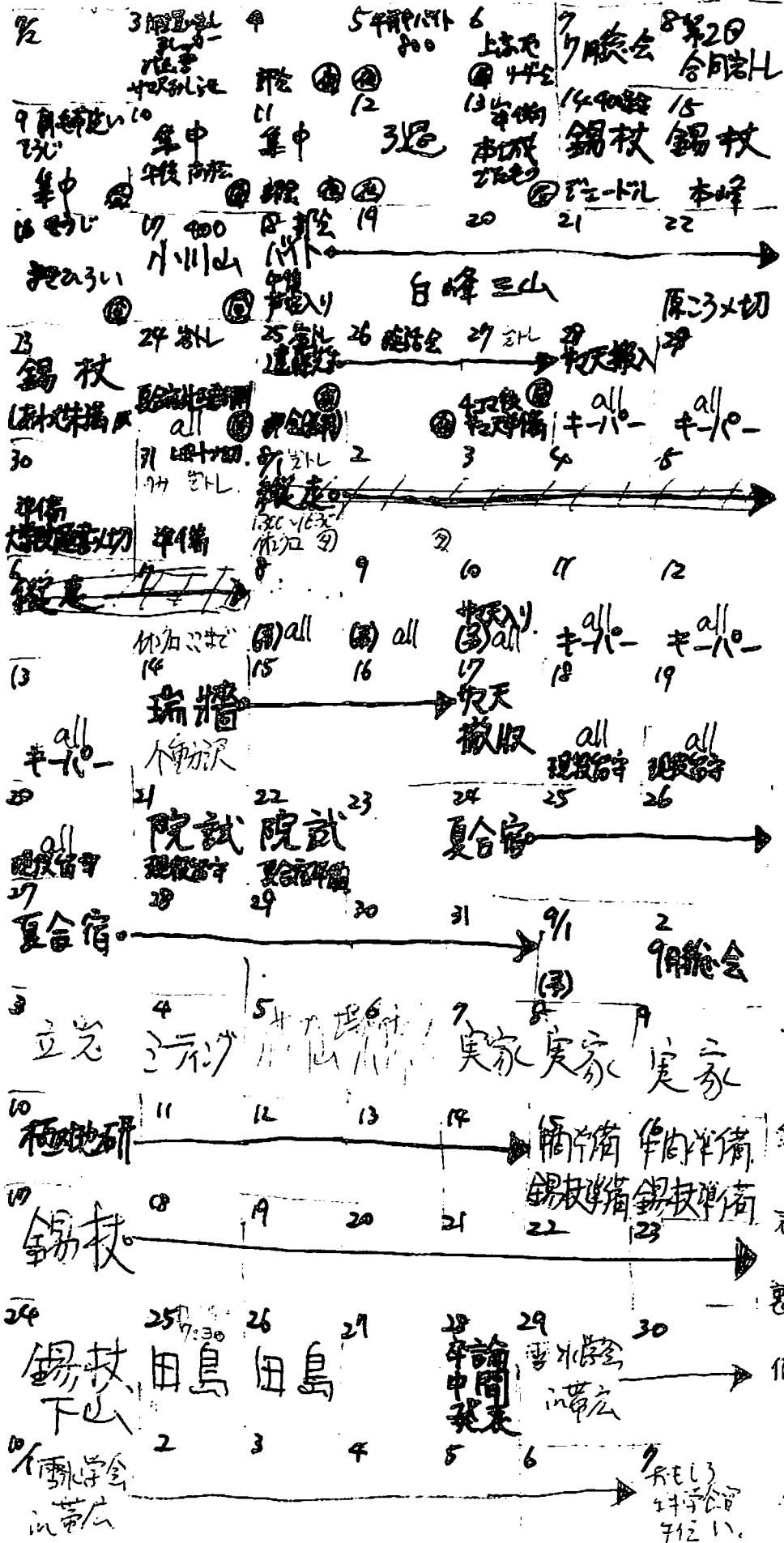
乾いた岩もあと少し。

これからはアイゼン岩トシの季節だ。

立岩アイゼンワールドを広げよう!

アツいぞ 立岩! うおー。

ちゃんぽ



印刷日
 61.10.17
 発行元
 信大長会
 松本
 編集
 横山J
 表紙
 片寄
 裏表紙
 5枚返り状北表
 価格
 5元13

SAC

7月11日
 7月12日